0. 繋がり合う“ムラ”としての建築を目指して【prologue】

【都市化や核家族化の進展】

産業革命以降、近代化を迎えた社会は急激な人口増加を経験し、
経済活動の中心となる都市への流入人口が増大し、郊外開発を行い、
人々の往復運動という日常生活を支えるインフラを作り、都市が
拡張拡大していった。
現代の都市や暮らしのあり方（建築）は、経済活動を支えるための
ものとなってしまっている。

【様々な社会問題が顕在化】

現在の都市構造において、家庭の養育力の低下や育児に関する
様々な負担、育児と仕事の両立が困難な働き方、未婚化や晩婚化
による高齢者の単身暮らし（少子高齢化）など、
様々な社会問題が顕在化している。

～ 物事は全て時間と共に変化する。
そんな時、変化に順応する力が求められる ～

私たちの身の回りのものは全て、時間と共に変化し続け、それに私たちは順応していかなくてはならない。
産業革命以降の人口増加から現在では人口減少に転じ、それに伴う少子高齢化などの社会問題が顕在化。
新型コロナウイルスの感染拡大によるパンデミック。
そのコロナ禍を経験して見えてきたテレワークやリモート授業などの「新しい日常生活」。
このように生活や環境が変化する時、建築はどのように順応できるだろうか。

著しい変化に順応する為、計画されたものではなく、その時々に様々な変化に持続的
に対応しながら、多様な活動を許容する建築を作る。
そこには、人と人、地域と地域、様々なものが相互につながり合う“ムラ”のような生活風景が見えるだろう。

**【コロナ禍によって
気付かされたこと】**

テレワークを経験し、働く場所は労働の収容所であり、自宅は
都市労働者の生活収容所でしかないことに気づいた。
自宅や近隣で過ごす生活時間が増えた。
これは、自然と共に生き、近隣の人々同士が気軽に挨拶を交わす、
“ムラ”のようなコミュニティスケールの生活のようである。

**【「新しい日常生活」
- 新しいあたりまえ -】**

「新しい日常生活」は様々な制限から解放された「活動的生」を求めている。
働くという概念が変わる一方で、生活空間は、多様な活動を包摂する豊かな
空間が用意されるだろう。「新しい日常生活」では、都市は集積することを
止め、急速にローカルなネットワークに変容するかもしれない。

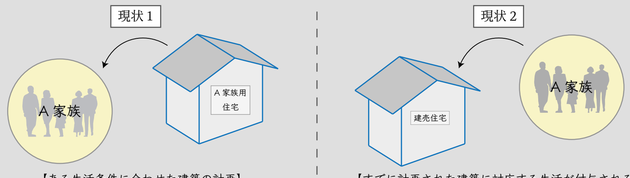
1. “ムラ”としての建築【policy】

“ムラ”としての建築を作るための３つの方針

時間　-time-

- 様々な変化に対応し、持続的に更新されていく -

現在の建築の計画のあり方は、以下の２つが一般的に考えられる。



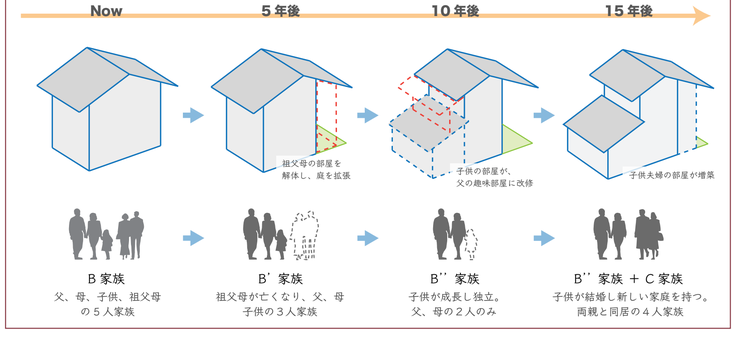
【ある生活条件に合わせた建築の計画】
A 家族が住宅を建築家に依頼し、一連の建築計画が
行われ、A 家族に引き渡される。

【すでに計画された建築に対応する生活が付与される】
建売住宅など、ある程度生活を想定された住宅に A 家族が
入居してくる。A 家族のための住宅ではない。

その一時点に対して対応した建築や、すでに計画された建築では、
今後起こり得る変化やに対して柔軟に対応することができない。

提案方針

生活環境や家族構成の変化に伴い、建築自体も増減築を繰り返し、生活環境に合わせて持続的に更新していく。

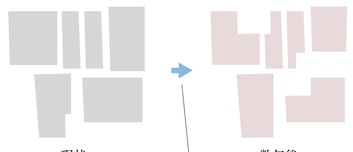


部分　-plan-

- 部分から全体へ -

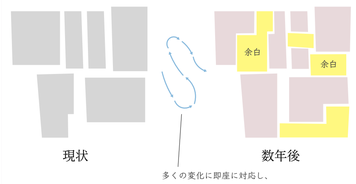
現在の建築計画のあり方

将来を見据えて、ある程度想定した事象の変化に対応できる
よう設計を行った建築に向かって計画を進める。
周辺環境を考慮しながら一つ一つの建築が各々で計画を進める。

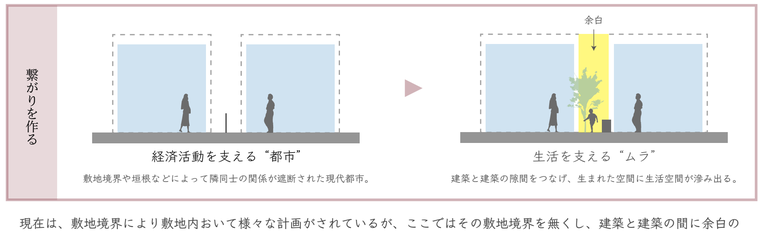


部分による積み重ね

完成形を想定せず、その時々の変化や事象に即座に対応し、
部分を構築する。その部分の構築が結果的に全体となり、
一つのまとまりを帯びた建築となる。



建築が敷地内での可変を繰り返すのではなく、全体の一部として扱われ、建築と建築の間に変化を許容する余白となる空間ができる。



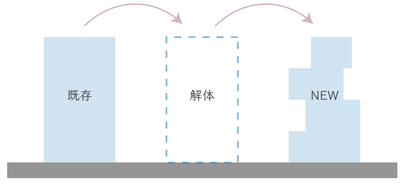
現在は、敷地境界により敷地内おいて様々な計画がされているが、ここではその敷地境界を無くし、建築と建築の間に余白の
空間を作る。そうすることで、変化に柔軟に対応できる許容範囲が広がる。
その余白の所有はどちらのものと限定されるのではなく、お互いを許容する空間となる。

記憶　-memory-

- 歴史や思い出を切断せず、未来へと継承する -

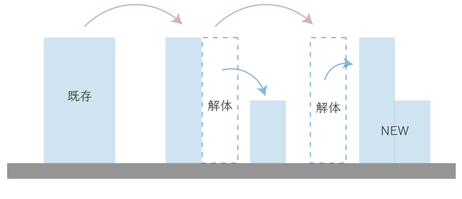
【記憶を引き継ぐ】

過去、現在、未来はそれぞれが独立した一時点ではなく、一つの時間軸の中に存在するものと考える。
過去から現在、現在から未来へとそれぞれが断絶的に経過することは決してなく、一つの時間軸に存在すると考えるならば、
全てが緩やかに繋がっていく。その繋がりには、過去の記憶、そして現在、さらには未来への期待が共存している。
しかし、時間の経過とは同じことの繰り返しではなく、新しいものへと変化することがある。
この変化を許容しながら、過去の記憶を引き継ぎ、未来へと継承することを目的とする。



現在の建築の更新

現在の建築の更新のあり方は、既存→更地→建築
へと既存建築を全て解体してから新しい建築へと
生まれ変わらせてしまっている。
これでは生活の時間が途絶え、建築に対する思い
出や歴史、その地域の風景を一瞬にして書き換え
てしまう。



建築の歴史や時間を引き継ぐ

建築を全て解体して更新するのではなく、一部解
体して置き換えながら更新していく。
その場に流れている時間を断絶的に書き換えてい
くのではなく、形を変えながらもそこに住む人や
建物の歴史や時間を引き継いでいく。